

田中英式(愛知大学経営学部教授)

岐阜婦人アパレル産業集積内 ネットワークに関する歴史的考察

経営総合科学(愛知大学) No.104
pp.37~54 2015.9.

本論文の目的は、岐阜婦人アパレル産業集積内の生産ネットワークの形成過程を歴史的に考察することにある。主な対象地域は岐阜市間屋町である。本論文は、「1.はじめに」、「2.岐阜婦人アパレル産業集積内ネットワークの概要」、「3.岐阜アパレル産業集積の歴史に関する資料・既存研究」、「4.集積内生産ネットワークの形成・変容プロセス」、「5.ネットワークの形成要因」、「6.おわりに」の6節から構成されている。

「2.岐阜婦人アパレル産業集積内ネットワークの概要」では、著者の別稿(田中英式[2013]「産業集積内ネットワークのメカニズムについての研究—岐阜アパレル産業集積のケースから—」『愛知経営論集』第168号)を引用し、岐阜婦人アパレル産業集積が(1)広範かつ重複する取引関係のネットワーク(=全体ネットワーク)と(2)各製造卸企業を中心とした比較的強い関係を持つより有機的な複数の個別ネットワーク(=部分ネットワーク)から構成されていることを確認している。

「3.岐阜アパレル産業集積の歴史に関する資料・既存研究」では、本論文が参照する既存研究・資料を紹介している。4節以降の分析には、ここで紹介されている研究・資料が用いられている。

「4.集積内生産ネットワークの形成・変容プロセス」では、集積内生産ネットワークの形成過

程を論じている。現在のような生産ネットワークが形成されたのは、1950年代半ばから1960年代半ばの時期にかけてである。1980年代以降、大手アパレル企業、縫製メーカーの海外進出の影響を受け、岐阜アパレル産業集積は縮小していった。しかし、その中でも比較的規模の小さな従来からの製造卸企業は集積内部に止まった小規模な縫製業者と結びつき、国内生産ネットワークを維持したと指摘している。

「5.ネットワークの形成要因」では、生産ネットワークが形成された要因を製造卸企業のネットワークの構築、縫製業のネットワークという二つの視点から考察している。繊維・アパレル関係の経験を持つ企業家達が、ネットワークカーとして岐阜県内・名古屋・一宮等の近隣地、および大阪・京都等関西方面からの生地仕入、集積内部の縫製体制の確立といった面で生産ネットワークを構築していったこと、そしてそのネットワークに引っ張られる形で独自の縫製ネットワークが形成されたことを明らかにしている。

「6.おわりに」では、本論文の議論を要約している。以上見てきたように、本論文は岐阜婦人アパレル産業集積内の生産ネットワークに着目し、ネットワークの形成過程と形成要因を明らかにした研究である。ネットワークが形成された要因として、繊維・アパレル関係の経験を持つ企業家達の活躍が重視されている。本論文は、同集積のネットワークの形成過程を理解する上で大変貴重な研究といえる。今後、上記の企業家達の有する知識や能力、ネットワークの具体的な中身、および彼らが実際にどのようにしてネットワークを構築し得たのかを詳細に分析することによって、岐阜アパレル産業集積におけるネットワークの実態に一層迫ることができる

と考える。

(岐阜大学地域科学部助教 宇山 翠)